

自我の芽生えた子どもの子育て

1歳台の子どもの特徴

自分のしたいこと嫌なことがはっきりとわかってきます。欲しいと思うとガマンしたり、待ったりすることができません。嫌なことは、ぜったいにしません。家族が大好きで、何でもまねをしたがりです。お母さんがする掃除、食卓の準備・かたづけ、洗濯の手伝いをしたがるようになります。兄・姉と同じことをしたがり、同じものを欲しがります。公園で楽しく遊びはじめると、なかなか帰ろうとしません。思い通りにならないと、かんしゃくを起こして、床にひっくり返って抗議するかもしれません。このような子どもは、あなたのお子さんだけではありません。1歳台の子どもは、みんな同じです。安心してください。

楽しく自我を育む子育て

自我の芽生えた1歳～2歳台の幼児を、親の思い通りにさせようと企てるとことごとく失敗します。親の方がイライラして、かんしゃくを起こすことになりかねません。まず、子どもの気持ちに添うことから始めてください。子どもがやりたいことを見つけて、「アー、アー」と指さしたら、子どもの気持ちを早く確認し今行なっている家事の手を止めてタイミングよく、しゃがんで子どもの目を見て、「〇〇ちゃんは、牛乳がほしいのね」と言葉をそえて応えてあげましょう。「△△しなさい」、「ダメでしょ！」などの命令や禁止の言葉は使わず、「〇〇してみようね」、「△△できるよね」と子どもの心に問いかけましょう。もし「イヤだ」と言えば、「そう、イヤなの。じゃあ、あとでしようね」、「やりたくなったら教えてね」と子どもの気持ちを尊重してあげましょう。子どもの気持ちを早く確認し、できるだけ尊重してやると、子どもは喜び満足します。いろんなことに興味を持ち、好奇心が旺盛になり、やる気が育ちます。

このような子育ては、子どもを甘やかしているのではなく、子どもの自我を育てているのです。このように子育てをしていると子どもの気持ちがよくわかり、子どもの発達がよく見えます。「積み木を5個つめたね、ワンワンとニャンニャンの区別ができたね」と子どもの発達を見守り、自我を育むことはとても楽しいことです。

年齢に合った制限を設ける

子どもの行動を尊重しながら、軌道修正してあげることも大切です。たとえば、公園で自由に遊ばせていても、急に道路に飛び出そうとしたときは、大きな声で「ダメ！」と叫ばなければなりません。家の中で危ない物に触ろうとしたら、すぐその場から抱きかかえて引き離すか、子どものそばへ行き、目をじっと見て「あっ、ちっ、ちっ、触れないよ」と説明しましょう。父親の書類や兄の大切なおもちゃで遊ぼうとしたら「パパの大事、大事、遊べないよ」などとその行動を制止し、「ほら、このボール楽しいよ」と別の遊びにさそいましょう。お母さんに時間の余裕がまったくない時は、「今は遊べないよ、ごめんね」といって、することを済ませてしましましょう。

自制心と創造する心を育てる

子どもの自我を育む子育てをしていると、子どもの心の中に安心と満足がいっぱいたまります。でもまだ、1歳児はやりたいことをガマンできません。もう少し待ってあげましょう。2歳児は、満足がいっぱいの心の中で「少しは待ってもいいかな、ガマンできるかな？」と自分の欲望を自制する心を、少しずつ芽生えさせていきます。心をこめて無心に「すこし待ってくれる、ガマンできるよね」と問いかけると、あるとき「いいよ」と応えてくれるでしょう。

幼児の心に自制心が芽生えた瞬間を目撃することは、子育ての喜びのひとつです。そして、子どもの自我を認め育てることが、なんでも自分で考え、積極的に行動し、新しいことを創造する人間を育てる土台になります。